

第 4 学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 オリジナル通信を作って、わたしたちのことを伝えよう
 学習材「みんなで新聞を作ろう」（東京書籍 4 年上）
 「新聞を作ろう」（光村図書 4 年上）

2 単元について

- 本単元では、学習指導要領に位置付けられた「文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」及び、「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」を重点指導事項とする。この指導事項を児童に身に付けさせるために、単元を通した言語活動として「通信作り」を位置付ける。その理由としては、自分の考え（伝えたいこと）が明確になるように冒頭部－展開部－終結部を意識して記事を構成することや、書こうとすることの中心を明確にして見出しを付けたり表や写真などから理由や事例を挙げて記事を書いたりすることが必要となるからである。また、本単元で扱う通信という媒体は、経験したことや調べたことを客観的に伝えるだけではなく、自分の考えや思いを伝えるという目的があり、児童が自分たちのことを伝えるために適していると考えたからである。

通信作りを行うに当たり、「みんなで新聞を作ろう」（東京書籍 4 年上）と「新聞を作ろう」（光村図書 4 年上）を学習材とし、指導計画や通信作りの手引きに生かしていく。

- 本学級の児童は、第 2 学年までに「観察したことを記録する文章などを書くこと」の経験をしている。その後、第 3 学年において、「報告する文書を書く活動を通して、調べたことを分かりやすく整理して書くこと」を学習している。実態調査(対象児童 35 名)では、「文章を書くときに大切なことは何ですか」という質問に対して、「大事なことを落とさず書く(3 名)」「はじめ、中、おわりに気を付けて書く(1 名)」という結果で、既習事項を意識できている児童は少数であった。また、「グループで話し合いをするときに、好きな役割は何ですか」という質問に対して、「司会(9 名)、記録(19 名)、発表(7 名)」という結果であった。「記録」を選んだ児童の多くは、「発表は苦手だけど書くのは得意だから」という理由であり、話し合いで自分の考えを発表することに対して消極的な傾向であることが分かった。
- 単元の指導においては、新学習指導要領に位置付けられた「知識及び技能等」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を見据えて、主体的・対話的で深い学びの実現を図るように指導を工夫していく。そのために、以下の点を重視して指導する。

主体的な学びの実現に向けては、「学習課題」「学習計画」「振り返り」の 3 点をポイントとして指導を行う。まず、学習課題は、指導事項 (A)、思考行為 (B)、言語活動 (C) を取り入れて示す。本単元では、「経験したことや調べたことを分かりやすく書くために (A)、段落の役割を組み合わせる記事を書いたり、言葉を集めて見出しを考えたりして (B)、お家の人へわたしたちのことを伝えるオリジナル通信を作ろう (C)。」という学習課題を設定し、児童が目的を明確にして取り組むことができるようにする。次に、学習計画には、思考ツールを用いる。本単元では、Xチャートを用いて「話題決め」「取材」「記事書き」「割り付け」の事柄に分けて具体的な学習計画をグループごとに立てさせ、見通しを持って学習課題を解決させていく。振り返りでは、本時のめあてに対して到達目標を授業の初めに教師が提示し、その目標に対する振り返りを行わせるようにする。また、本単元の終わりには、単元を通した振り返りも行い、単元でどのような力が身に付いたのかを児童に自覚させる。

対話的な学びの実現に向けては、「視点」「役割」の明確化を意識する。本単元において、視点を明確にするとは、互いの考えを伝え合ったり検討したり協働したりする際に、何に目を向けて話し合う

のかを示すこととする。例えば、記事を検討する場合には、「言葉（適切な言葉を使っているか）」「表現（書こうとすることの中心が明確になった見出しになっているか）」「文章の構成（冒頭部－展開部－終結部を意識して書けているか）」などを視点とする。このようにして、書こうとすることの中心や記事の構成が分かりやすくなることを目的とした話し合いになるようにする。役割を明確にすることは、児童への話し合いに対する事前アンケートを基に、司会や記録を担う児童をあらかじめ決めておくこととする。児童の意欲を尊重することで円滑で充実感のある話し合いを目指したい。この役割分担については、単元ごとに変えていくようにする。

深い学びの実現に向けては、「習得・活用・探究」の学習プロセスを埋め込んだ単元を設計し、各単位時間では「教える場面」と「児童に思考・判断・表現させる場面」の両面からの指導を計画していく。そのために、単元のゴールである通信の例を単元の初めに提示し、探究する意欲を高めるようにする。また、単元の学習を通して、通信作りの手引きに加筆修正を加えさせながら、手引きを完成させてオリジナル通信に生かすようにさせていく。このような指導を通して、児童に指導事項を確実に身に付けていきたいと考える。

3 単元の目標

相手や目的に応じ、経験したことや調べたことについて、段落の役割を考えながら記事を書いたり、書こうとすることの中心を明確にして見出しを付けたりすることができる。（書くこと イ・ウ）

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・通信の特徴を見付け、それを基に学習課題や学習計画を立て、意欲的に通信づくりに取り組み、単元の最後には今後の学習につながる感想を書こうとしている。	・記事ごとに段落の役割を考えながら記事を書いている。(イ) ・書こうとすることの中心を明確にして見出しを付けたり、取材したことから理由や事例を挙げて書いたりしている。(ウ)	・句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書いている。(イ(エ))

5 指導と評価計画（全8時間）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準と 評価方法（[]）
一 次 つ か む	1 時 目	○通信例を見て、通信の特徴を確かめる。	・通信例を提示し、単元を通して位置付けた言語活動のゴールをイメージさせ、学習への意欲を持たせる。 ・段落の構成や見出しなどに着目させ、通信の特徴を探らせて、学習課題を設定させる。	相手に伝わりやすい通信を書くためには、どのような工夫があるのかを見付けて、学習課題を考えようとしている。 【関】 [ノートへの記述の分析] [学習活動の観察]
		○学習課題を設定する。		
		学習課題 文章の構成を考えて経験したことや調べたことを分かりやすく書くために、段落の役割を組み合わせる記事を書いたり、言葉を集めて見出し考えたりして、お家の人へわたしたちのことを伝えるオリジナル通信を作ろう。		

	2 時 目	○学習課題を受けて、お おまかな学習計画を 立てる。 ○記事にする話題を出 し合う。	・「話題決め」「取材」「記事書き」「割 り付け」の事柄に分けて、活動時間 と内容をグループごとに検討させて 学習計画を立てさせる。その際、グ ループによって学習計画の偏りがな いように声を掛ける。	学習計画と記事にする話題につい ての意見を出し、どのような通信 を作りたいかを友達に伝えようと している。 【関】 [学習活動の観察] [ノートへの記述の分析]
二 次 深 め る	3 時 目	○記事にする話題を決 め、取材の準備をす る。	・記事の話題を決めさせる際は、相手 や目的を意識させて、書こうとする 中心が明確になる話合いにさせる。 ・担当する記事について、記事を書く ためにどんなことを知りたいかを考 えさせ、取材する内容と取材の仕方 を整理させる。	相手や目的に応じた記事になるよ うに、グループでの話合いで意見 を出している。 【書】 [学習活動の観察]
	4 ・ 5 時 目	○取材をして、記事を 書く。	・取材カードの使い方やアンケート調 査のまとめ方については、通信作り の手引きを参考にさせる。 ・5W1Hを欠かすことなく書かせる ようにする。 ・記事の構成メモを基に、文章の構成 を意識させる。 ・記事を書いた後に、段落の役割が明 確になっているかを段落ごとに見直 させる。 ・次時では、グループで個人の見出し を検討させるため、グループ内の児 童の記事を読ませておく。	取材したことを基に、使う言葉や 表現等を考えながら、記事を書い ている。 【書】[記事の分析] 記事の構成メモと実際の記事を見 直し、段落の役割を明確にして書 いている。 【書】[記事の分析] 句読点を適切に打ち、正しく改行 をして書いている。 【言】[記事の分析]
	6 時 目 (本 時)	○記事を基に、見出し を考える。	・記事例を基に、見出しを付ける際の ポイントを探らせる。 ・見出しを付ける際のポイントを生か して、記事の内容を明確に示した見 出しを考えさせる。	見出しを付ける際のポイントを生 かして、記事の内容が読み手に伝 わる見出しを付けている。 【書】 [記事と見出しの分析] [学習活動の観察]
	7 時 目	○割り付けをし、通信 を仕上げる。	・割り付けをする際は、個人の記事の レイアウトを考えて、読み手を引き 付ける工夫をさせるようにする。	グループで効果的な割り付けを 考えて、通信を完成させている。 【書】 [学習活動の観察] [通信の分析]
	三 次 ま と め る	8 時 目	○オリジナル通信を読 んで、感想を伝え合 い、単元を振り返 る。	・本単元で身に付いたことを振り返ら せ、今後の学習や生活に生かすこと を意識させる。
単 元 後		○家族にオリジナル通 信を紹介する。	・オリジナル通信に対するコメントを もらい、本単元での学習に対しての 充実感を味わわせる。	

6 本時について (6 / 8)

(1) 本時の目標

見出しを付ける際のポイントを生かして、記事の内容が読み手に伝わる見出しを付けることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点及び支援 (○) と評価 (◆) C の状況にある児童への手立て (→)
つかむ 見通す	1 前時までを振り返り、本時の学習活動を確認する。	○前時の振り返りと本時の学習計画を確認させることで、見出しを付けるという学習への意欲付けを行う。
	2 記事例を読み、見出しの効果と付ける際のポイントを探る。 <u>見出しを付ける際のポイント</u> ポイント①…短い言葉で ポイント②…話題を入れて ポイント③…自分の考えや思いを込めて	○見出しがない記事例を示し、見出しがあると記事の内容がつかみやすく読み手を引き付ける効果があることを確認する。 ○見出しを付ける際のポイントを探らせるために、教師が曖昧な見出しの例を3つ示し、児童の批判的思考を促しながらポイントを設定する。
	3 学習のめあてを考え、本時の見通しを持つ。 めあて (例) (話題や自分の考えが分かる言葉を入れて、短い言葉で) 見出しを付けよう。	
考える 考え合う	4 見出しを付ける。 ・個人 ・グループ	○学習活動に対して見通しを持って学習に臨ませるために、めあてを考えさせる。その際、見出しを付ける際のポイントを生かすよう示唆する。 ○学習のめあてに対する到達基準を示し、学習の目標を明確にさせる。 ○グループの話合いでは、見出しについて児童自身の考えを紹介させる。 ○グループの話合いを円滑に進めさせるために、話合いの簡易マニュアルを渡しておく。 ○学習活動2で探ったポイントを話合いの視点にさせて、グループ内で見出しを検討させる。
		◆見出しを付ける際のポイントを生かして、記事の内容が読み手に伝わる見出しを付けることができている。 【書】 [記事と見出しの分析] [学習活動の観察] →話題 (出来事) と自分の感想を組み合わせる見出しを付けるように声を掛ける。
振り返る	5 全体でグループの学習活動を紹介し、質問や感想を発表する。	○友達の見出しを紹介させ、見出しを付ける際のポイントに対する考えを広めたり深めたりさせる。
	6 本時の振り返りをし、友達と感想を交流する。	○自分の成長や変容について、振り返らせる。 ○学習計画を確認し、次時の学習につなげる。